

【研究区分：地域課題解決研究】

研究テーマ：シトラスパーク再生チャレンジプロジェクト —エデュテイメント機能による地域観光資源の再編	
研究代表者：経営管理研究科 教授 吉川成美	連絡先：narumiyo@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：経営管理研究科 教授 百武ひろ子	
<p>【研究概要】</p> <p>テーマパークの持続的な経営には、「受け身」や「待ち」の観光産業から脱却し、「顧客」としての観光客をより関わりのある関与者に変えていく必要がある。観光資源を共に関わりながら関与する教育装置として機能させることで、地域資源の持続的生産と共創を可能にすることができないだろうか考えた。そこで本研究では、「エデュテイメント」の視点からシトラスパークを拠点にオンラインとリアル双方に対応した「農ロゲイニング」を開発し、地域観光資源の再発見と新しい時代に適応するツーリズムの創出により関係人口の創出へ提言を行った。</p>	

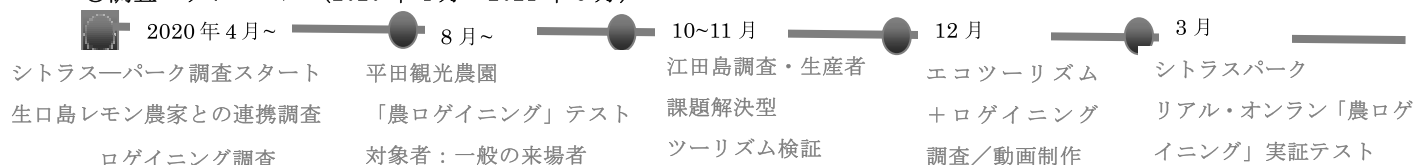
研究概要

本研究はシトラスパークに「エデュテイメント」機能の実装を行うことで観光資源の捉えなおしや再生を目指す実証型の研究である。

「エデュテイメント」とは、「教育」という意味の「エデュケーション」と「娯楽」という意味の「エンターテイメント」を合わせた造語である。社会進化のための「エデュテイメント」は、ジョンズ・ホプキンス大学における課題解決型研究や非政府組織やアメリカ疾病予防管理センター（CDC）のような政府機関が活動しており、世界的にも影響を与えている。今では広く世界中で使われ、特に身近な健康に関する重要なメッセージを大衆に伝え、教育する役割を果たしていることで顕著である。本研究の学術的な特色は、社会進化を目的とする「エデュテイメント」機能という切り口で観光資源の再編を行う点にある。テーマパークや観光資源の再生に際し、地域の課題解決を視野に入れた「エデュテイメント」を開発・導入した例は他には見られない。コロナ禍において地域資源との新たな関わり方の創出は、これからの観光のあり方へ提案となり、地域経済へ全般への活用が可能ではないかと考えた。

前半は、エデュテイメントを行うツールとして何がふさわしいかを検討することとした。2020年春以降、観光は大幅に停止を迫られた。本研究チームはコロナ禍にける自然との関わり調査をもとに、オンラインでも調査・テストが可能な方法について検討を重ねた。その結果、地域資源を再発見しながら、地域をめぐる、これまでになかった視点で地域を発掘する「ロゲイニング」を最適な機能として仮説を立てた。「ロゲイニング」とは、地図を見ながらチェックポイントをまわり、制限時間内に集めた得点を競うゲーム感覚のスポーツである。本研究では、この「ロゲイニング」をさらに改良し、農的暮らしに親しむきっかけを提供し、人の繋がりを強化することのできる「農ロゲイニング」の開発を行った。比較対象地域として、①観光農園の成功事例として平田観光農園、②観光地を含む農村地域（江田島・西表島）を設定し、実際の生産者と一般の顧客の参加を伴った「農ロゲイニング」の実験を行い、最終的にシトラスパークで比較対象地域とオンラインで繋ぎ、「シトラスを学び、農に触れる」プログラムによる実証試験を行い、シトラスパーク発「農ロゲイニング」のプロトタイプを構築した。

○調査スケジュール（2020年4月～2021年3月）





本研究で開発する「農ロゲイニング」

「農ロゲイニング」を通じて、体験者が訪れた地域とのつながりを見出し、農的暮らしに親しみきっかけを得ることを目的とする。

ロゲイニングとは地図を見ながらチェックポイントを回り、制限時間内に集めた得点を競うゲーム感覚のスポーツ

2.平山 観光農園 ユーザ・顧客参加型調査

図2：平山観光農園での実証実験で制作したロゲイニングマップ

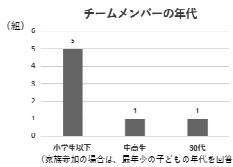


参加者に配布した農ロゲイニングマップ 平山観光農園地図に掲載を加え筆者作成

実証実験 参加者の声

ゴールした瞬間LINE公式アカウントよりWiFiアンケートを依頼、回答数 37回

ロゲイニング認知度
参加したことがある 0%
聞いたことがある 0%
知らなかった 100%



農ロゲイニングに参加した感想
つまみづから、0%
あまり楽しくなかった 33%
シンドイ 0%
まあまあ楽しかった 57%
とても楽しかった 43%

難易度やイベントがあっ場合の参加意向 (大人1,000円、小学生以下500円)
いいえ 43%
価格がもっと安ければ、参加したい 57%

参加特典

図4：参加賞(上)と入賞賞品(下)



図5：農ロゲイニングLINE公式アカウント 画面、登録時の案内(上)と結果発表(下)



推進母体



農ロゲイニング推進員会を設立する

委員会メンバー・連携組織

- ・ 江山島カヌークラブ
- ・ 有限会社平山観光農園
- ・ NPO法人西衣エコツーリズム協会
- ・ 厚田市シトラスパーク再生委員会
- ・ HBMSプロジェクト研究「農ロゲイニング」ゲーム

「農ロゲイニング」ビジネスモデル

① 観光農園向けプログラム企画
遊び・学び・共同体験を統合的に提供される園内の「農ロゲイニング」
「農ロゲイニング」(1人1台)を貸出し、自然の環境の中にあそびに関する体験を促すことを目的とする。
[収益イメージ]
企画料 20%として
20/100円の企画料 x 30台/年

② ローカル農家に出会うツアー
産地地域の特色や産出での収穫体験を兼ねながらローカル農家での「農ロゲイニング」
・ 産地の産作物や、物の購入などが「アソビ」
・ 農家と自然の環境の中にあそびに関する体験を促す。
・ 農家に会うきっかけを提供し、産地農家の農産物と「アソビ」も行う。
[収益イメージ]
・ ツアー参加料
・ 農産物の手数料

成果：①シトラスパークの特長を活かしたプログラムや地域関係者との交流を通じて、参加者の地域への理解を促進させるための「エデュテイメント」機能を実証することができた。

②オンラインとリアルの双方に対応した新しい交流プログラムにより関係人口の創出につなげることを焦点にあて、「農ロゲイニング」による地域観光資源の再発見とアフターコロナ時代に適応する新しいアグリツーリズムの手法の提案を行った。

提案：「シトラスパークの再生チャレンジプログラム」

1. シトラスパークが新時代のアグリツーリズム、環境教育プログラム創出のラボとなることを目指し、その一案として農業に触れるエデュテイメントとして「農ロゲイニング」を発信する。
2. シトラスパークの特長を活かしたプログラムや地域関係者との交流を通じて、参加者の地域への理解を促進する。
3. オンラインとリアルの双方に対応した新しい交流プログラムにより、これまで旅行に行くことをあきらめていた「旅行弱者」も参加可能となり、関係人口の創出につなげる。
4. 「ツーリズム+食育+地域農業の活性化」プログラムとして他地域と横に繋がり、農家と消費者をつなぎ、観光農園の新しいビジネスモデルを実現する。